



木曽林務課だより

6月

寒暖の差が激しい季節、森林は若葉の緑のまぶしさが一段と増す6月を迎えた中、大桑中学校の1年生が体験した植樹活動等を紹介します。

大桑中学校の「植樹体験」野外活動を紹介 ～林業の始まりを知り、将来の森に思いを馳せる～

大桑中学校では、毎年春に地域の豊かな自然に接する体験的な活動を通じて、地場産業としての林業を理解するとともに、協働作業により集団への帰属意識や仲間との絆を深め、郷土愛を育むことを目的として、総合的な学習の時間を活用し、「植樹体験」の野外活動を実施しています。

今年6月3日に、大桑村長野の増ヶ沢村有林でヒノキ100本とイタヤカエデ20本の植栽、及び野生動物の食害防止対策のネットを設置する作業を行いました。

生徒たちは二人一組に分かれ、大桑村役場産業振興課、木曽南部森林組合、木曽森林管理署南木曽支署、地域振興局林務課の職員の指導により、鍬で十分な植穴を掘り、1本1本丁寧に心を込めて苗木を植えました。



植林作業の説明を聞く生徒



食害防止資材の設置作業

大桑村でも近年は、シカ等の野生動物の苗木の食害が大きな課題になっています。

このため、今回は、植えた苗木をすっぽり囲ってしまう資材を被せる作業を行いました。

資材を固定するクリップが固くて悪戦苦闘する場面もありましたが、指導者から作業のコツを教わりながら植栽から食害防止資材の設置まで、約2時間の作業に汗を流し、何とか完了することができました。



丁寧に植栽作業



作業が完了しました

この野外活動は大桑中学校の「みどりの少年団」の活動としても位置付けています。

慣れない手つきで、精一杯作業した生徒の皆さんは、植えた木が将来大きく成長して郷土の森を豊かにする姿を思い描けたでしょうか？